



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# ケースメソッド教育ハンドブック

## ～ ディスカッション・リーダーシップ ～

5

ケースメソッド教育ハンドブックの第Ⅱ部では、講師(ディスカッションリーダー)の持つべき教える技術について述べている。これは、「参加者による主体的な討議を求めつつ」しかも「講師の教育意図に近い形で教える」ことがどのようなことかを示す試みでもある。ディスカッション・リーダーシップの各論についても多数記載してあるので、「教える」という行為を主に「講義型」で理解している方々には、講義で教えることとは違う教え方のパラダイムを実感していただけるであろう。副題を「ティーチングスキル」とせずに「ディスカッション・リーダーシップ」としたのは、この言葉の方がケースメソッド授業の講師に求められる能力をよりよく表わし、また、この授業運営スキルを根底で支える能力は、ビジネスの現場で求められるリーダーシップ能力と重なる部分が多いという考え方による。

15

- 第1章 ディスカッションリードという営みを理解する
- 第2章 ディスカッションリーダーに必要なスキル
- 第3章 ディスカッション授業計画の下準備
- 第4章 ディスカッション授業を計画する
- 第5章 ディスカッション授業を動かす
- 第6章 ディスカッション授業で学ばせる
- 第7章 しばしば寄せられる質問

20

---

本稿は平成17年度慶應義塾大学 MOT プロジェクトにおいて高木晴夫（慶應義塾大学ビジネススクール教授）と竹内伸一（ケースメソッド教育研究所代表）が作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

Copyright©2006 は慶應義塾大学ビジネス・スクールが保有する。